

A：達成できた B：概ね達成できた C：やや達成できなかった D：達成できなかった

学校教育目標	重点目標(中期目標)	今年度の重点	総合評価
たくましく かしこい子どもの育成	深く考え取り組む子ども(知) ⇒ かんがえよう 思いやりのある子ども(徳) ⇒ つなげよう 健康でがんばりのきく子ども(体) ⇒ きたえよう	一人ひとりの子どものよさに目を向け、学びを高める授業づくり	・授業研究では、子どものよさや願いをしっかりとみつめ、教科の本質を問いながら授業づくりを進めた。一人一公開授業や研究会を通して、授業改善に取り組むことができた。また、教師自身が教材研究として自らまずやってみることも大切にしてきた。 ・ペアやグループで対話する活動を意識して取り入れ、理解を深めたり新しい考えに気づいたりする子どもの姿がたくさん見られるようになってきた。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業を心がけてきている。さらに子どもたちが主体となる授業にするために、工夫できることを考えていきたい。

分野	評価項目	評価の観点	評価				成果と課題		
			A	B	C	D			
教育課程	地域と連携した教育課程づくり	地域の素材・人材の参画を図った活動ができたか。	○				○様々な方に協力していただいて、たくさんの経験を積みよい学習をすることができた。 ・ドリルの時間の丸付け、豆腐作り、米づくり、クラブ活動、野菜作りなど、地域ボランティアの方々に教えていただき、貴重な学習や充実した活動ができた。 ・今年度地域の方々の方でオープンした郷土資料室は、資料も整理され、今後の学習に生かしていくことができそうである。教材化に向けて職員研修を行った。地域の方を講師にお招きしての学習も始まっており、3年生、4年生では「歴史教室」を行うことができた。 ・学校のまわり・周辺の自然と、一年通して関わることができた。		
	かんがえよう	最後まで話を聞く	発表者以外は静かに話を聞くよう、働きかけたか。		○			○話し手に体を向ける、お互いに聞き合える環境をつくるなど、子どもの実態に応じて、発表形態、個人追究の時間などを工夫してきた。静かに話を聞く習慣が育ってきている。さらに、学びのUD化を位置付けていきたい。 ・最後まで話を聞かずに自分の話を始めてしまう子どもたちには、場に合った「聞く」「話す」のマナーを教えたり、認め合う学級づくりを進めたりしながら、さらに支援していきたい。	
		自分の考えを書く	わかったこと・気がついたこと・思ったことを書く時間を確保していたか。		○			○まず自分の考えを持ち、それを書く時間や授業の振り返りで学んだこと、わかったことを言葉で書くことを大切にできた。「言語化」は理解の深まり、変容と直接結びつくので、ペアやグループで対話する活動と合わせてどの授業の中に取り入れるようにした。 ・書くことの苦手さが大きな子どもたちが、安心して書く活動に取り組むことができるよう、研究グループを中心に様々な取り組みを行った。今後も支援を工夫していきたい。	
		進んで発表する	子どもたちが意見を出し合う時間を確保していたか。		○			○まず自分考え、友だち同士で考えを深めることができるように、ペアで話し合ったり、グループでまとめたりする活動を多く取り入れてきた。全体での発表が苦手でも、少人数の中で安心して発言できる子どもが増えてきた。考えを認め合い、深め合う姿につながってきている。 ・発表するための発問や、発言を更に深めるように工夫してきた。進んで考えを述べたり、じっくりと考えたりする姿がよく見られるようになった。 ・子どもたちによる対話を大切に、「課題設定」「本時のめあて」「学びの道筋を明らかにする」「追究する(話し合い時間を確保し、十分に話し合わせる)」授業を大切にできた。 ・自分の考えを全体に伝えることは大切にしながら、じっくりと自分自身の心に向かって問いかける姿も同様に大切にしていきたい。	
	教育活動	一人ひとりが追究する	一人ひとりが見通しを持って追究ができるように、ねらいを明確にした授業を心がけたか。		○			・どの教科でも、子どもがねらいを持って主体的に取り組むことができるよう、やることや学習問題を丁寧に板書し、UD化の視点をもって授業の流れがわかるように全校で意識統一して取り組んできた。 ・「できた」喜びを感じ得る子どもが増えるよう、ねらいを明確にした授業づくりを大切にしていきたい。	
		明るく元気なあいさつ	日常的な声かけや児童会活動により、あいさつのよさを自覚させながら、積極的にあいさつをしようとするよう働きかけたか。		○			○教師が自ら積極的にあいさつを心がけ、実践するとともに、あいさつの大切さを、校長講話や各学級で何度も語ってきた。次第にあいさつのできる子どもが増えてきた。 ・児童会主体となったあいさつの意識を高める活動とともに、各学年でも取り組みを行ってきた。 ・教師のあいさつには元気よくあいさつを返してくれる児童もいるが、自分から誰にでもあいさつするというところまではしていない。来校者や地域の方々にも明るいあいさつをする習慣が身につくまで、継続して取り組んでいきたい。高学年がお手本となって自らあいさつできるように支援していきたい。	
		つなげよう	ひびく歌声	全校音楽、学年音楽、音楽会で歌う時間を設け、子どもたちが共に声を合わせて歌うよさや楽しさを感じるようにしたか。	○				○合唱班を中心に、すばらしい歌声が響くようになってきた。音楽会後も毎朝歌を歌っている学級が多く、歌声を大切にする学校づくりができた。みんなで歌う心地よさを感じる子どもが確実に増えてきている。 ・全校音楽の時間・機会を多くとり、学年・合唱班などの活躍の場にする事ができた。今後も計画的に取り組めるようにしていきたい。
		人の気持ちを考えた行動	自分や友達のよさを大切にするよう、日常の様々な事象をもとに、子どもたちに考え行動するよう働きかけたか。		○				○学級遊びや構成的グループエンカウンターを中心に、自己理解、他者理解を深める活動を行ってきた。トラブルが起きた際には、子ども個々の思いを聞き取り、一緒に考えることを大切にして、どうすれば良かったのか等を一緒に考えた。人間関係づくりを大切に、特になかよし月間では、互いのよさを見つけた、相手の思いを大切に自分の思いの伝え方を考えたりする活動を多く取り入れることができた。 ・「人の気持ちを考えた行動」については、立ち止まって考えるべきことが毎日起こる。その都度、個別・全体への指導を繰り返し行ってきた。今後も、継続していきたい。
	きたえよう	外で元気に体を動かす	外へ出て元気に体を動かすよう、遊び時間や運動時間を確保しているか。		○			○休み時間には、多くの子どもたちが外に出て体を動かしている。可能な限り職員も一緒に外に出て遊んでいる。 ・プール・運動会・体育の授業など、子どもたちが元気いっぱい体を動かす時間を確保できた。 ・マラソン週間、大縄跳びクラスマッチなど、楽しく体づくりができるよう取り組むことができた。縄跳びでは、苦手な友だちを応援する姿が見られ、クラス記録を1回でも更新するよう、心を合わせる活動ができた。 ・子どもたちの休み時間をしっかり確保できるよう、引き続き授業終了時間を守っていきたい。	
		給食を残さず食べる	自校給食のよさを生かし、子どもたちが感謝の気持ちを持って残さず食べるよう工夫したか。	○				○給食をつくってくれる人の顔が見える、直接対話できるよさを最大限に生かした食育指導ができています。 ・自分の食べられる量を調整し、食べる時間を十分に確保し、時間内に食べられるよう指導している。 ・残食が減ってきたクラスも多い。好き嫌いや食べる量については個人差があるので、個に応じて配慮しながら、今後も支援していきたい。	

		規則正しい生活	教師も子どもも時間を守るようにしたか。	○			○チャイムを意識し、時間をきちんと守ることを心がけた。休み時間や5分休みを必ず確保し、授業に集中できるように配慮した。 ・職員もチャイムと同時に授業を開始し、チャイムでしっかりと授業を終了できるよう意識してきた。
		共に鍛える	全校体育、運動会を通して、なかまとの共同の喜びや達成感を得させることができたか。(「自己評価カード」で振り返りを行う。)		○		○今年度より春開催の運動会となったが、子どもたちは練習の成果を十分に発揮し、達成感の大きな運動会となった。全校体育では、全校マラソンや大縄跳びクラスマッチなどを取り入れ、楽しく体づくりを進めたり、仲間と協力したりして取り組めるようにすることができた。 ・けがをする子が多いこと、また体力テストの結果が平均を下回るものがあることから、引き続き、体幹を強くする経験(遊びや運動)、体力向上を図ることのできる活動を増やしていきたい。
		基礎学力の定着	スモールステップ学習やドリル学習の継続など、基礎事項の定着を行っていたか。		○		○朝の活動(ドリル)や授業の中で、計算や漢字の学習を繰り返し行い、基礎事項の定着を図ってきた。 ・個人差はあるが、わかった・できたという喜びや、量感を伴った理解を大切に、さらに工夫していきたい。 ・スモールステップで定着を図っているが、基礎事項の定着に大きな差がある。確実な定着を図るために、個々の課題を明確にし、諸テストの分析結果を生かして有効な支援の方法を探していきたい。
	生徒指導	安心・安全な学校生活	学校のきまりやマナーを守って生活するように働きかけたか。		○		○けが防止のため、廊下歩行については、全校集会を開いたり、年間通して子どもたちに呼びかけたりしてきた。児童会活動での呼びかけも積極的に行われ、落ち着いて歩行できる子どもがだんだん増えてきた。引き続き安心・安全に過ごせるためのルールの大切さを伝え続けたい。また、ルールを守ろうとする自制心・公德心なども、引き続き子どもたちに育てていきたい。
		心を込めた掃除	黙って掃除をする「もくもくタイム」を通して、心を込めた掃除を行い、学校や教室の環境整備ができたか。		○		○児童会活動を中心に、子どもの願いに沿って無言で清掃をするよう取り組んできた。時間いっぱい取り組んでいる子どもが増えてきた。 ・黙想の時間を清掃のはじめに位置付け、心を落ち着けて清掃に向かうことができている。自らに問いかけ、課題をもって黙々と清掃をする心地よさや達成感を味わえるよう、引き続き支援していきたい。 ・役割や内容(何をどのように)をはっきりさせ、高学年をお手本に取り組んでいくようにしたい。
学校運営	保護者との連携 研修	家庭学習の充実	家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけができたか。		○		○家庭学習が習慣化するよう、宿題の量や内容を決め、見直しをもって取り組ませた。自主的な学習が定着しつつある。 ・CRTテスト等の結果を受け、苦手な部分の補完ができるよう宿題の内容を考慮した。 ・保護者とも連絡をとりながら家庭学習が習慣づいてきている。 ・家庭学習が習慣になっていない子どももいるため、家庭と連絡をとり進めていきたい。
		PTAやボランティアとの連携	学校はPTAやボランティアとの連携を行っているか。		○		○PTAバザーでは、各部と協力し、楽しく開催することができた。 ・クラブ講師や外国語活動でのボランティア支援をいただくことができ、大変ありがたかった。
		児童理解・非違行為防止研修	児童理解・非違行為防止等の研修を行い、自己研鑽に努めたか。	○			○非違行為防止研修は職員同士の対話を大切にし、グループワーク等を取り入れながら互いに相談できる職場づくりを大切に行ってきた。 ・個別の指導計画の作成を通して、学年・学校全体で児童一人一人の共通理解を図りながら、児童理解に努めることができた。